

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 5 月 20 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2011～2014

課題番号：23251011

研究課題名(和文)漢字文化圏における典籍の集積、国際的伝播及びその伝承に関する実証的研究

研究課題名(英文)A positive research for accumulation, international intercourse and transmission of Classics in the Sinosphere

研究代表者

石塚 晴通 (ISHIZUKA, Harumichi)

北海道大学・・・名誉教授

研究者番号：10002289

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 38,400,000円

研究成果の概要(和文)：世界規模での文化遺産である漢字文化圏典籍について、その生成・展開・伝播の過程を敦煌本・楊守敬本・高山寺本等の綿密な調査に基づいて跡づけ、更にそれ等典籍の高精細デジタル光学顕微鏡分析を実施して漢字文化圏での典籍学・アーカイブス科学に新たなパースペクティブをもたらした。

研究期間中に3回の国際集会を開いて成果を公表し世界の図書館・博物館の司書・学会員向け教科書を意図した英文小冊子を刊行した。又研究成果の一部が京都国立博物館特別展に於いて展示されたり、中日新聞夕刊一面トップ記事として報道される等、研究成果の社会的衆知も果たされた。

研究成果の概要(英文)：It is realized to trace the process of accumulation, international intercourse and transmission of Classics in the Sinosphere by elaborate researches of Dunhuang敦煌 manuscripts, Yang Shoujing楊守敬 collection and the Kosanji高山寺 collection, and to conduct the scientific analysis by the high-precision digital microscope. They have cultivated new perspective in the field of Codicology典籍学 and archives science.

It is realized to hold 3 international symposiums and to edit the booklet for textbook purposes for world-wide librarians and curators. And a part of results of this research has been exhibited at the special exhibition of the Kyoto National Museum and the Chunichi newspaper中日新聞 have had a big article in the head-page on a part of results of this research.

研究分野：日本語学 敦煌学 典籍学

キーワード：日本語学 敦煌本 楊守敬本 典籍の国際交流 典籍の工学的分析

1. 研究開始当初の背景

研究代表者(石塚)と文献学分野の分担者(池田、豊島、赤尾)らは、過去数十年に亘って敦煌本・正倉院本・高山寺本などの書誌調査に共同して従事し、近年では、科学研究費補助金による研究

・平成 14～18 年度 基盤研究(S)「寺院経蔵の構成と伝承に関する実証的研究 高山寺の場合を例として」

・平成 20～22 年度 基盤研究(B) (海外学術調査)「漢文典籍の国際交流に関する実証的研究」

を通じて、それらの典籍の移動・展開に関する実証的研究を推進すると共に、一連の国際学術集会

・平成 14 年「典籍の国際的交流・受容(訓読)」国際学術集会

・平成 16 年「日本学・敦煌学・漢文訓読の新展開」国際学術集会

・平成 18 年「典籍交流(訓読)と漢字情報」国際学術集会

・平成 21 年「漢字情報と漢文訓読」国際学術集会

の開催、及び、文字字体史に関するデータベース HNG

・平成 16～19 年度 研究成果公開促進費(データベース)「漢字字体規範史データベース」<http://joao-roiz.jp/HNG/>

の提供(平成 18 年度「白川静記念東洋文字文化賞」受賞)や、日本伝存の後に中国に渡った最大のコレクションである楊守敬(よう・しゅけい)旧蔵本の全貌を明らかにする初の文献目録

・『湖北省博物館蔵日本卷子本経籍文書』(上海辞書出版社、2006)

・『隣蘇園蔵書目録』(中国湖北省博物館・上海辞書出版社、2010) (「隣蘇」は楊守敬の雅号)

の編纂・刊行に力を注いで、これらの漢字文化圏典籍の生成・展開・伝承過程の実証的解明と、その成果の国際的共有を積極的に進め、国際的な研究者コミュニティの醸成に努めてきた。

近來、敦煌文献は、IDP(国際敦煌プロジェクト)主導による原本電子化とその www 公開が大いに進捗し、分担者(岡田)は、その IDP の日本拠点の責任者として、原典籍の工学的研究(特に光学的非破壊分析)を推進してきた。

この他、日本の正倉院聖語蔵聖教が全点高精度 DVD として公開されつつあるなど、従来の文献学的手法に工学的手法を加えた、新たな文献史学の国際的な共同研究への態勢は、急速に整いつつあった。

2. 研究の目的

漢字文化圏で生成された典籍(儒教經典・仏典等で、非漢字の文献も含む)は、漢字文化圏内部での伝承を越えて、広く世界的共有を見

るに至ったが、その展開・分散の過程の学術的探求は殆ど行われていない。本研究は、この世界規模での共有文化遺産である漢字文化圏典籍について、その生成・展開・伝播の過程を実証的に跡付け、その過程の持つ歴史的意義を明らかにしようとする初めての試みであって、既に敦煌本・正倉院本・日本高山寺本等についての実証的な研究に豊富な実績を持つ文献学者グループに加え、更に工学(光学的非破壊分析)・仏教史学専門家の参加をも得て、かつてない規模で漢字文化圏での典籍の生成・伝播を解明しようとするものであり、文献学・アーカイブズ科学に新たなパースペクティブをもたらす意欲的な試みである。

3. 研究の方法

漢字文化圏の典籍には、元は一体を成していた典籍資料体が、一旦離散して分蔵され、更に後日再集積される例が少なくない。既に研究代表者らが一定程度解明し得たものに、日本高山寺旧蔵書及び楊守敬旧蔵書があり、更になお多くの研究を要する正倉院本及び敦煌本(スタイン収集・ペリオ収集等)がある。本研究では、過年度作成の楊守敬旧蔵書『隣蘇園蔵書目録』(「隣蘇」は楊守敬の雅号)データベースの増補・拡張を基礎として、楊守敬本の伝播を組織的に跡づけ、その過程で、従来の書誌学的手法に加えて紙質・墨の組成等の調査への工学(光学的非破壊分析)手法及び経函の年輪年代学的手法の適用も洗練し、その成果を敦煌本及び宋版等に拡張して、典籍の集積・国際的伝播及び伝承の過程の一般原理としての記述を進め、文献史学・書誌学・アーカイブズ科学に新たなパースペクティブを与えることを目指した。

(1) 典籍書誌・集積・伝播データベースの作成及び内部評価

典籍の集積・伝播に関する一般原理を立てる立場から、データベースの作成及び内部評価を行って、追加すべき情報の洗い出し、キーとすべき項目の正規化などの、データベースのリファクタリング(再編成・再構築)を行った。

(2) 楊守敬本・敦煌本・正倉院本・高山寺本・東洋文庫本及び宋版の書誌調査の精密化

上記リファクタリングの結果、欠損している情報を補うべく、更に精密化した原本調査・工学分析を国立故宮博物院及び中国国家図書館・フランス国立図書館及び大英図書館・京都国立博物館・高山寺・東洋文庫等に於いて行った。

4. 研究成果

(1) 楊守敬本・敦煌本・正倉院本・高山寺本・東洋文庫本及び宋版等の綿密な書誌調査と

代表的典籍の工学分析とを併せて行い、各時代・各地域の典籍にはそれぞれ標準が存し、その標準は各時代・各地域で変遷することが判明した。研究成果の公表と更なる研究推進のための国際研究集会を3回(平成24年度於龍谷大学、平成25年度於国際仏教学大学院大学、平成26年度於龍谷大学)開催してそれぞれ英文・日文の予稿集を刊行し、又これ等の成果を集約して世界の図書館・博物館の司書・学芸員向け教科書を意図した英文小冊子“Elements of Codicology of the Hanzi Script”を編纂して配布した。

(2) 国際会議における講演・研究発表や訓点語学会等の国内学界における研究発表を通じ、本研究の成果の一部を随時公表した。又、東洋文庫善本叢書等の原寸・原色影印本の刊行に全面的に協力し、それ等の解題に於いて本研究の成果の一部を公表した。

(3) 平成26年度の京都国立博物館特別展「国宝鳥獣戯画と高山寺」に於いて本研究の成果の一部を展示し、図録巻頭論文・関連講演に於いて本研究の成果の周知に努めた。又、平成25年度には中日新聞夕刊一面トップ記事(平成25年10月7日付)として本研究の一部が大きく報道され、南知多岩屋寺の宋版大蔵経は中国 京都高山寺 南知多岩屋寺と伝承し其の経函は1284年に近畿地方で伐採した大木の杉材で製作されたことを解明した本研究の成果が一般的に衆知された。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計23件)

石塚晴通、從 Codicology 的角度看漢文仏典語言学資料、佛典音義研究、査読有、1巻、2015、pp.332-342

赤尾栄慶、隋経『阿難見水光瑞経』の出現、高田時雄教授退休紀念東方學研究論集[日英分冊]、査読無、1巻、2015、pp.25-33

石塚晴通、從紙材看敦煌文献的特征、敦煌研究 敦煌研究院成立七十周年紀念專号、査読有、1巻、2014、pp.118-122

石塚晴通、高山寺本宋版法蔵和尚伝(影印)、平成二十五年度高山寺典籍文書綜合調査團研究報告論集、査読無、1巻、2014、pp.18-57

池田証壽、高山寺新訳華嚴経音義と宋版大蔵経、平成二十五年度高山寺典籍文書綜合調査團研究報告論集、査読無、1巻、2014、pp.64-76

赤尾栄慶、古代写経的字形、敦煌学・日本学統編、査読無、1巻、2013、pp.99-107

石塚晴通、大槻信、勸修寺蔵金剛頂大教王経頼尊永承点(第二)釈文稿、勸修寺論輯、査読無、第8号、2012、pp.1-21

石塚晴通、漢字字体規範史から見た『龍龕手鏡』、口訣研究、査読有、第30号、2012、pp.5-21

池田証壽、漢字字体の実用例と字書記述から見た『龍龕手鏡』、口訣研究、査読有、第30号、2012、pp.23-52

石塚晴通、漢字文化圏における典籍の集積、国際的伝播及びその伝承 高山寺の場合を例として、国語と国文学、査読有、89巻2号、2012、pp.14-25

池田証壽、「寂」の異体 HNG による考察、訓点語と訓点資料、査読有、127輯、2011、pp.13-29

豊島正之、キリシタン文献の和紙、古典籍古文書料紙事典、査読有、1巻、2011、pp.305-309

落合俊典、從十二世紀至十三世紀日本古写経看『開元録』的成立、佛教学文献與文學、査読有、1巻、2011、pp.43-59

[学会発表](計16件)

ISHIZUKA Harumichi、Codicology of the Hanzi Script、International Symposium “Codicology of the Hanzi Script”(基調講演)、2014年11月8日、龍谷大学大宮キャンパス(京都市)

石塚晴通、明恵上人と高山寺の文化財、京都国立博物館土曜講座(招待講演)、2014年10月11日、京都国立博物館(京都市)

石塚晴通、コディコロジー、東洋のコディコロジー(招待講演)、2013年11月18日、東洋文庫(東京都文京区)

岡田至弘、東アジア資料デジタルアーカイブ化の一例と今後の展望について、韓 & middot 日国際文化フォーラム(招待講演)、2013年4月16日、駐日韓国大使館文化学院(東京都新宿区)

石塚晴通、漢字字体規範史から見た『龍龕手鏡』、国際セミナー「東アジアの文字言語交流上の『龍龕手鏡』」(招待講演)、2012年5月25日、ソウル(韓国)

池田証壽、漢字字体の実用例と字書記述か

ら見た『龍龕手鏡』、国際セミナー「東アジアの文字言語交流上の高麗本『龍龕手鏡』」(招待講演)、2012年5月25日、ソウル(韓国)

豊島正之、金属活字製作に於ける異体字、国際シンポジウム「字体規範と異体の歴史」、2011年12月18日、東京外国語大学(東京都府中市)

〔図書〕(計 8 件)

HARUMICHI ISHIZUKA、(自家版)、Elements of Codicology of the Hanzi Script、2014、49

石塚晴通編、上海辞書出版(中国)、敦煌学・日本学続編、2013、460

豊島正之編、八木書店、キリシタンと出版、2013、370

石塚晴通編、勉誠出版、漢字字体史研究、2012、407

石塚晴通(版下提供)、上海辞書出版(中国)、日本卷子本経籍文書(改訂版)、2011、97

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.joao-roizjp/HNG/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石塚 晴通 (ISHIZUKA, Harumichi)

北海道大学・名誉教授

研究者番号： 10002289

(2) 研究分担者

落合 俊典 (OCHIAI, Toshinori)

国際仏教学大学院大学・仏教学研究科・教授

研究者番号： 10123431

豊島 正之 (TOYOSHIMA, Masayuki)

上智大学・文学部・教授

研究者番号： 10180192

赤尾 栄慶 (AKAO, Eikei)

独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部・上席研究員

研究者番号： 20175764

池田 証壽 (IKEDA, Shoju)

北海道大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号： 20176093

岡田 至弘 (OKADA, Yoshihiro)

龍谷大学・理工学部・教授

研究者番号： 30127063

大槻 信 (OTSUKI, Makoto)

京都大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号： 60291994

(3) 連携研究者

橋本 雄 (HASHIMOTO, Yu)

北海道大学・大学院文学研究科・准教授

研究者番号： 50416559

徳永 良次 (TOKUNAGA, Yoshitugu)

北海学園大学・人文学部・教授

研究者番号： 50254694

高田 智和 (TAKADA, Tomokazu)

大学共同利用機関法人人間文化研究機構国立国語研究所・理論・構造研究系・准教授

研究者番号： 90415612